

第1学年 社会科（地理的分野）学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 丹後 七重

1. 学習単元 文化財はなぜ遺すの？—平城宮跡と首里城跡を比較して— （日本の諸地域「近畿地方」）

2. 単元の見込み

- ・さまざまな資料を読み取り、平城遷都 1300 年事業を機に国営公園として整備が進められてきた平城宮跡の復元事業と、同じく整備が続く首里城正殿の復元事業を比較することを通して、文化財が担う役割やその価値を理解することができる。 (知識・技能)
- ・文化財の価値を見出す学習場面を設定することで、習得した知識を活用し、根拠を明確にして、現在進められている平城宮跡の復元事業を今後も続けるべきかどうかの是非について、奈良県の将来の姿も考慮して自分の考えをもつことができる。 (思考・判断・表現)
- ・「奈良めぐり」で訪れた世界文化遺産・平城宮跡の復元事業の成果と課題を自らすすんで見出そうとし、よりよい奈良県の実現のために課題を追究・解決しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会編「地理的分野C日本の様々な地域（3）日本の諸地域」に位置付けられる。

近畿地方は古都が多く、日本の中心として栄えた長い歴史をもつ地域である。現在は大阪市、神戸市、京都市を中心とした京阪神大都市圏が広がっている。また、地域の歴史的な観光資源を活用するなど観光業を推進する一面もあり、地域住民が住み続けられるまちづくりを進めるためにも持続可能な観光業のあり方を考える必要がある地域ともいえる。

本校の近くにある平城宮跡は1998年、東大寺や興福寺などとともに「古都奈良の文化財」として世界文化遺産に登録された。一時期を除いて奈良時代(710年～784年)に都が置かれ、政治や経済、文化の中心でありシルクロードの終着点ともいわれる場所である。しかし、都が京都へ遷ると平城宮は荒廃し、9世紀末には平城京の道路は田畑となっていた。また、大和国の中心地は東の興福寺周辺へと移っていった。

江戸時代末期、北浦定政による研究・調査で「平城宮大内裏跡坪割之図」などが完成し、平城宮の存在が再び人々に認識されることとなった。明治時代以降は関野貞らによって奈良時代の都の姿が明らかになり、棚田嘉十郎ら地元の人々を中心に保存活動が活発に行われた。1922年には史跡に指定されたが、それ以前に大阪電気軌道(現在の近畿日本鉄道)が敷設している。

1952年に平城宮跡の一部が特別史跡に指定され、奈良文化財研究所による発掘調査が進むと、平城宮が想定よりも広範囲だったことが明らかとなった。そのために保存運動が活発になり、近畿日本鉄道の検車区建設が世論によって中止・移転したり、国道24号線バイパスを迂回させたりした。1978年に策定された「平城宮跡保存整備基本構想」をもとに1998年、朱雀門・東院庭園の復元が完成した。2008年10月には平城宮跡を国営公園として整備することが閣議決定され、第一次大極殿の復元が完成した2010年には平城遷都1300年祭が盛大に開催された。2022年には第一次大極殿院南門の復元が完成するなど、令和の時代になっても復元事業が進んでおり、天平祭といったイベントも催されている。

同じく現在復元が進められている沖縄県那覇市の首里城跡も、2000年に「琉球王国のグスク及び関連資産群」として世界文化遺産に登録され、北殿は九州・沖縄サミットの晩餐会会場にもなった。尚巴志が琉球を統一した1429年から琉球処分がなされた1879年まで琉球王国の政治・文化・外交の中心地として栄え、中継貿易によって世界とつながっていた。沖縄県が設置されてからは荒廃し、正殿も倒壊の危険があると解体の話が持ち上がったが、鎌倉芳太郎らによって保存運動が行われた。1925年に正殿は国

宝に指定され昭和の大改修が始まったが沖縄戦では日本軍の駐屯地となり、アメリカ軍の攻撃によって焼失した。

戦後、跡地には琉球大学が開学した。本土復帰後の1972年からは首里城正殿の復元に向けた動きが活発化し、キャンパスの移転を契機に国営公園として復元・整備されることとなった。1992年には「平成の復元」として正殿が完成し、他の建造物の復元が進む中で多くの観光客も訪れる場所となったが、2019年10月の火災による焼失はまだ記憶に新しい。2022年、復元に向けた正殿起工式が行われ、2026年の完成をめざしている。「令和の復元」として今回で5回目の再建となる首里城正殿も、「平成の復元」時と同様、沖縄戦後に収集された王国時代の絵図や写真をもとに復元が検討されている。また、首里城は長い歴史の中で人々とともにあり、独自の歴史や文化の象徴として沖縄県民のアイデンティティにつながるものであるととらえることができる。

平城宮跡の整備事業は「奈良時代を今に感じる空間の創出」を目指している。観光客が訪れることによる経済効果が期待できることはもちろん、歴史学習の場としても、伝統技術の継承といった点でも大変意義があると考えられる。ところが、2003年(平城遷都1300年祭前)に実施した国土交通省の平城宮跡来訪者の利用意向調査によると、「積極的に建物等の復元を行い、面影を再現する」を求める声は12.9%にとどまる。そして、「あまり手を加えず、現在の自然や歴史資源を保存する」ことを希望するのは51.1%、「一部の施設は復元し、公園的利用が可能な整備を図る」ことを希望するのは34.2%と続く。調査報告書には、遠方からの来訪者は「積極的復元」を望んでおり、市内や県内からの来訪者は「現状保存」を望む声が過半数を超えているとの記述がある。

首里城とは異なり、平城宮跡は長く奈良県民の記憶から消されていた経緯がある中で、なぜ今文化財の復元事業が進められているのか、その意義を問うことを通して文化財の価値について考えさせたい。また、先人の選択・判断が現在の平城宮跡の姿を創り出していることから、文化財の価値をふまえて未来の平城宮跡の姿を考えさせたい。世界遺産・地域の文化財等を題材にした本単元は、ESDの本質である「身近なところから行動を開始し、学びを実生活や社会の変容へとつなげること」に迫れるものとする。

本単元は社会科と美術科、総合的な学習の時間とのクロスカリキュラムを実現させようとした。4月、社会科で本校敷地内のなら山三号墳を訪れ、先輩方が復元した埴輪を見学して身近な「復元事業」を体感させた。その後総合的な学習の時間「奈良めぐり」で訪れた平城宮跡で、社会科は平城宮跡の保存・復元事業をテーマに、美術科は平城宮跡で見つけた「色」をテーマに、それぞれの学習課題に取り組みさせた。本単元は同時期に、平城宮跡という同じ題材で社会科・美術科で連携しながら学習を進めた。

(2) 生徒観

本学年は比較的落ち着いた授業に臨む生徒が多く、資料を読み取ったり活用したりしながら学習課題に意欲をもって取り組む姿が見られる。一方で、豊富な知識をもちながらそれらを活用して自分の考えをもつことのできる生徒はまだ多くない。社会的現象を多面的・多角的にとらえ、他者に説明できる力を育成する必要があると考える。

自らが生活する地域を扱う本単元を「日本の諸地域」学習のスタートとして、地理的な見方・考え方を身に付けながら社会的現象の関連を考察し、自分とは異なる意見に触れることで新たな学びが生まれる楽しさを知ってもらいたい。そして、「わかる」「考える」社会科学学習への学習意欲を高めてもらいたい。

(3) 指導観 (第2次に限定して)

第2次第1時では、「奈良めぐり」で訪れた世界文化遺産・平城宮跡の復元事業の成果と課題をとらえさせる。田畑が広がっていた平城宮跡を大阪のベッドタウンとして進む都市開発から守った棚田嘉十郎の功績や戦後の保存運動については、「奈良めぐり」の事前学習として既習事項である。そのうえで、平城宮跡の建造物の復元は平城遷都1300年祭などに見られるように観光業を盛り上げている一方で、文献史料不足によって必ずしも「当時」を正確に再現しているとは言えないことや、「現状保存」を望む奈良市民や奈良県民の声もあったことを「知る」学習とする。

第2次第2時では、同じく世界文化遺産に登録され復元事業が進む首里城正殿を題材に学習を進める。平城宮跡と同様に国営公園として整備されているが、これまでの歴史をたどると住民の生活とともにあつ

た首里城の姿がある。独自の歴史や文化をもつ琉球王国としてのアイデンティティを重んじ、また王国時代の絵図や写真が残っていることから正確な復元が可能であるといえる首里城正殿の事業を知り、それを比較対象とすることで平城宮跡の復元事業の特色が「わかる」学習としたい。

第2次第3時では、現在進められている平城宮跡の復元事業を今後も続けるべきか、これまでの学習内容をふまえて「考える」学習とする。生まれた時にはすでに朱雀門も第一次大極殿も「完成」していた生徒にとって、約1000年間も田畑であった平城宮跡の復元事業を続けるか否かを問われることは「復元して当然」という価値観を揺さぶられる問いになるのではないだろうか。文化財の価値を見出す学習場面を設定することによって、よりよい社会の実現のために課題追究、課題解決に臨む態度を育みたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・多様性：文化財の保存・復元事業のあり方は、地域的特色や産業とのつながり、それぞれの立場の人の思いなどが相互に関連していることから、画一的でなくさまざまである。
- ・有限性：文化財は今後も長く遺していきたいが、人々の思いや時代の変化とともに、その保存・復元の価値観や事業のあり方が変わってしまうかもしれない。
- ・責任性：先人が遺してきたものを私たちはどのような姿で次の世代に伝えていくべきか、まず考え、発信していく必要がある。

○本学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・批判的に考える力 (Critical Thinking)
平城宮跡の復元事業を進めることは当たり前ではなく、そこには地域住民、行政、観光客など、さまざまな立場の人の思いがあることを知り、その背景と関連をとらえる。
- ・多面的・総合的に考える力
平城宮跡の復元事業に対する人々の思いに加え、経済効果やまちづくり、技術の継承、歴史研究といったさまざまな側面から文化財の保存・復元の意義について考える。
- ・進んで参加する態度
身近な地域の文化財をどのように守り次の世代へ伝えていくべきか、他地域の事例と比較しながら自ら課題解決に向かい、よりよい社会の実現に資する姿勢を身に付ける。

○本学習で変容を促すESDの価値観

- ・世代間の公正
先人の選択・判断が現在の平城宮跡の姿を創り出しており、そのおかげで私たちの生活があることから、平城宮跡を次の世代へと伝えていくことは大きな意義がある。
- ・幸福感に敏感になる、幸福感を重視する
地域住民、観光客、次の世代の人々みんなが幸福を感じられるような文化財の保存・復元事業のあり方を考えることが大切である。

○達成が期待されるSDGs

- 4 質の高い教育をみんなに
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 16 平和と公正をすべての人に

4. 単元の評価規準・指導計画

次	時	主な学習活動	学習への支援	評価規準
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○近畿地方の地域的特色を大観する。 ○京阪神大都市圏の成り立ちを知る。 ○復元された大阪城の姿を知り、単元の探究課題を把握し仮説を立てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・近畿地方の地域的特色をさまざまな資料から概観できているか。(知技) ・近畿地方の地域的特色を理解するため、見直しをもって主体的に追究しようとしているか。(主)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○神戸市では外国の影響を受けた文化が見られることを知る。 ○兵庫県では歴史的な観光資源を活用した取組が行われていることを知る。 ○兵庫県では震災遺構の保存活動がどのように行われているかを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な観光資源を活かした取組が観光客を呼び寄せ、地域活性化につながっていることを理解しているか。(知技) ・震災を風化させないための震災遺構の保存活動に関して、人々の思いや取組の工夫に着目して考えているか。(思判表)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良県の「かやふきん」が製品開発された経緯を知る。 ○伝統的工芸品を発展させるため、社会の変化に対応しながら伝統産業の技術を継承していることの意義を考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活(現在)が伝統産業(歴史)と時間軸でつながっていることを理解しているか。(知技) ・伝統産業が社会の変化に対応した商品開発をしていることについて、持続可能性に着目して考えているか。(思判表)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良や京都では、行政や地域住民が一体となって歴史的な街なみを維持するための景観政策を進めていることを知る。 ○「新奈良町にぎわい構想」から、住み続けられるまちづくりの視点も取り入れた持続可能な観光業のあり方の重要性について考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・景観政策によって維持される歴史的な街並みが観光客を呼び寄せ、地域活性化につながっていることを理解しているか。(知技) ・行政と地域住民が、ともに観光業と地域住民の生活との両立をめざして取組を進めていることについて、持続可能性に着目して考えているか。(思判表)
2	1	<ul style="list-style-type: none"> ○建造物の復元によって多くの観光客が訪れ、経済効果がもたらされていることを知る。 ○平城宮跡の来訪者は復元事業に「積極的復元」と「現状保存」を望む声が拮抗していることを知り、その背景を考える。 ・遠方からの来訪者は、平城宮跡をもっと整備してほしい。 ・県内からの来訪者は、現状保存を望んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客による経済効果が得られる一方で、地域住民の生活に支障が出る側面があることも認識させる。 ・復元事業に対する人々の思いが拮抗していた背景を、利用目的の視点から考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡を都市開発から守った棚田嘉十郎の功績や戦後の保存運動について理解しているか。(知技) ・観光客が訪れることによる経済効果や平城宮跡の復元事業への来訪者の思いから、平城宮跡が奈良県や奈良県民にとってどのような存在なのか、考えを深めているか。(思判表)
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○琉球王国の歴史をたどり、首里城が長い間人々の生活とともにあったことを知る。 ○沖縄県民や世界中の人々が、首里城跡の復元事業に期待していることを知る。 ○首里地域の住民がめざす首里城を中心としたまちづくりを知り、平城宮跡の復元事業と比較してそのちがいを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・首里城の歴史を、平城宮跡の保存運動、整備事業と比較しながらとらえさせる。 ・住民が進めてきた「平成の復元」時からのまちづくりのあり方とその思いを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も復元されてきた首里城正殿が、多くの人の期待を受けて「令和の復元」が進められていることを理解しているか。(知技) ・地域住民の心の拠り所となっている首里城をまちづくりの中心に据えていることをふまえ、平城宮跡と首里城の復元事業を比較し、そのちがいを明らかにしようとしているか。(思判表)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○「もしあなたが国土交通省の職員だったら」と仮定し、平城宮跡の復元事業を今後も続けるべきかどうか、班で話し合っ て結論を出す。 ○文化財の復元事業が進む理由を考えることを通して文化財の価値を見出し、将来の奈良県の姿を主体的に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の復元事業の是非だけでなく、将来の奈良県の姿はどうあるべきかといった視点もふまえて話し合いができるよう、助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡の復元事業を今後も続けるべきかの是非を考察し、根拠を示して自分の考えを他者に伝えているか。(思判表) ・文化財の価値を見出し、よりよい社会の実現のために課題を追究・解決しようとしているか。(主)

5. 単元構想図

多くの復元された文化財

近畿地方はどのような特色をもつ地域なのだろう？

奈良県や京都府には
国宝や重要文化財が
多いなあ。

兵庫県は震災遺構も
保存しているよ。

蚊帳の製造技術は今、
「かやふきん」製造に
使われているよ。

近畿地方は長い
歴史をもつ地域
なのだなあ。

平城宮跡はどのような場所なのだろう？

- ・奈良時代に都があった場所。政治・経済・文化の中心地だった。
- ・都が京都へ遷ってからは田畑が広がっていた。
- ・明治時代以降、地元の住民を中心に保存活動が活発に行われた。
- ・1998年に世界文化遺産に登録された。
- ・現在も復元事業が進み、イベントも開催されている。

奈良県や奈良県民にとって、平城宮跡はどのような存在なのだろう？

「奈良めぐり」を思い出そう、利用者アンケート調査を分析しよう

歴史学習だけでなく、
近所の人にとっては散歩が
できる場所でもある。

観光客が来ることに
よる経済効果を得られ
る場所だ。

遠方からの来訪者は平城宮跡
の整備を望んでいるが、県内
の来訪者が現状維持を望んで
いるのはなぜなのだろう？

沖縄県や沖縄県民にとって、首里宮跡はどのような存在なのだろう？

平城宮跡と同じ都であり、世界文化遺産に登録された首里城跡を知ろう

火災後には多くの人が
復興を願い、募金活動
も行われている。

首里城を中心とし
たまちづくりが進
められている。

長い間田畑になっていた平城
宮跡と、何度も復元をくり返
しながら住民の生活とともに
あった首里城跡とでは、人々
の思いは異なるのかな？

平城宮跡の復元事業は、今後も続けるべきなのだろう？
班で話し合って結論を出し、発表会をしよう。

奈良時代の様子を知
ることができるから
続けるべき。

観光業がさかんになり、
奈良県の経済がよくなる
から続けるべき。

後世に伝統技術を
伝える必要がある
から続けるべき。

地域住民は現状維持を望
んでいたのだから、続け
るべきでない。

なぜ文化財を遺そうとしているのだろう？文化財はどのような役割を持っているのだろう？

子どもたちが歴史
学習をするために
必要なもの。観光
名所にもなる。

これまで継承され
てきた技術を、復
元事業によって次
の世代に伝える。

遺されたもの・復
元されたものは、
地域住民の心の拠
り所にもなる。

先人が残してきた歴史を大
切にし、未来へ伝えていく
役割を持っている。次の世
代へどのように伝えていく
か、未来の姿を想像して考
える必要がある。

6. 授業実践の実際、成果と課題

(1) 班活動による生徒の判断 —平城宮跡の復元事業は今後も続けるべきなのだろうか—

2003年実施の平城宮跡来訪者の利用意向調査において、遠方からと県内からの来訪者との間には復元事業に対する意見に大きなちがいがあった。それから20年が経った2023年、私たちは今、復元事業が進められてきた平城宮跡の姿とともにある。そこで「20年後の奈良県の姿を考えながら、平城宮跡の復元事業は今後も続けるべきなのだろうか」と生徒に問いかけ、班で話し合いをさせた。以下は話し合いの結果をまとめたものである。

判断 * () は班の数	判断した理由
復元事業を続けるべき(24)	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の風景が出されていて有名な観光スポットに変わっていくから。 ・文化遺産ではなくなるが歴史を学ぶことができるため、後の世代が学習できるように遺せるから。 ・奈良の歴史を学べる場所がなくなり、これからの世代に奈良の良さを知ってもらえなくなるから。 ・今も未来も人々に歴史的な価値と新たな思いを与えてくれると思ったから。 ・発掘調査が進むから。 ・復元を続けたら新しい歴史が発見できるから。 ・整備されて、きれいな状態を保つことができるから。 ・奈良県のシンボリック存在であり、国関係なしに観光客にも興味をもって来てもらうことができるから。 ・観光客が増えて、奈良県が全体的に発展するから。
続けるべきではない(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の人やすらぎの場所になる。 ・現状維持にする。復元にかかるお金を未来のために使う。
どちらともいえない(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・復元を続けながら遺構を残すなど、バランスをとる。

復元事業を「続けるべき」との判断が大多数であり、歴史学習の場、観光客による経済効果、後世へ伝える意義などに関する理由が多い。また、復元事業による発掘調査が進むことで新たな歴史の発見が期待できるとの意見もあった。しかし、それらは地域住民の「現状保存」を願う声を考慮していない。復元事業を「続けるべきではない」「どちらともいえない」と判断した班の意見には、地域住民の立場に立った考えも見られる。

(2) 個人での学習活動 —文化財の価値・役割とは—

班での話し合い後に、実際に進められている復元事業の基本計画を提示した。復元事業が「復元エリア」「遺構エリア」のようにゾーニングされている理由について生徒がさらに追究できるのではないかとのおねらいから、このような授業構成にした。最後に、個人の学習活動で単元のまとめ課題として文化財の価値についての考えを書かせた。以下、三名の生徒の意見を載せる。

「なぜ文化財を遺そうとしているのだろうか？文化財どのような役割を持っているのだろうか？」

A：やっぱり、歴史的な面があるから、そのつないできた歴史（記憶）を残していくためだと思う。人々が協力し守ってきた物をムダにしないことや、後世に伝え、歴史を知る大切な材料になるから遺そうとしていると思った。再建する事で地域の活性化もあるだろうし、経済的に潤い、市がかかえている色々な問題にあてる事ができるかもしれない。だから、今いる子どもや今から生まれてくる子供が成長（大人）した時に困らないように、生きやすい社会を作っていくためだからだと思う。

B：日本の国民だけでなく、国境を越えて海外の人達にも日本の文化財の魅力を伝えていくためだと思います。海外の人達に奈良の魅力を知ってもらい、もっと経済を回していき、安定させるためだと思います。そのほかにも、地元の人達のやすらぎの場所になったり、歴史が学べる場所を保っていくためだと思います。地元の人達の散歩場所や子供達の学びの場の1つでもあるため、のこそうとしているのだと考えます。

C：私は、未来の人が歴史を学ぶ時、想像しやすく、また観光客がたくさん来るようにするために文化財を遺そうとしているのだと思います。しかし、文化財を遺すことで観光客がたくさん来て、住民が住んでいる奈良町などのように騒音が問題になったり、文化財をたくさん復元してしまうと平城宮跡だったらボール遊びができる場所が限られ、自由に遊ぶことができなくなります。このような問題を解決するため、市は条例などの対策を行っています。私は、住民や観光客の人など全員が満足できるように、みんなで話し合っ規則を決めると良いと考えました。

Aの生徒は、これまで保存・復元事業に携わった人たちの思いに触れつつ、平城宮跡の建造物を再建することで得た経済効果（収入）を奈良市が抱える諸課題の解決に使うことを記述している。次の世代の人々の幸福につ

いても考えているのではないかと思われ、ESDで変容を促す価値観である「世代間の公正」「幸福感に敏感になる、幸福感を重視する」に関連するといえる。Bの生徒の意見には、地域住民にとっての平城宮跡の存在や日本の文化財を海外にも発信することについての記述がある。ESDで育てたい資質・能力の一つである「多面的・総合的に考える力」が育まれたのではないかと考えられる。Cの生徒は、第1次第4時で学習した奈良町の人々のまちづくりと関連させて、後世の人、観光客、地域住民が幸福であるための提案としてルール作りについて書いている。この意見からは、ESDで育てたい資質・能力「進んで参加する態度」が生まれ、「幸福感に敏感になる、幸福感を重視する」価値観の変容がみられるのではないかと考えたい。

個人での学習活動を設定することで、班での話し合いはさまざまな立場の人の思いを汲んでいたか、経済効果やまちづくり、技術の継承、歴史研究といったさまざまな側面からとらえることができていたかなど、自分たちの学習を見つめ直すことができたのではないだろうか。

また、学習単元のポートフォリオには「みんなの思いや考えが聞けて、自分が考えたことのないような意見があっっておもしろかった」「自分と反対の意見にも共感できた」「平城宮跡を遺すかどうかは本当に悩ましいなと思いました」との記述も見られた。復元事業を進めることが当然なのではなく、さまざまな立場の人の思いを尊重しながら住み続けられるまちづくりを進めていく大切さ、その実現の難しさを学んでくれたのだろう。本実践において、少しだが「批判的に考える力」が育成できたととらえたい。

(3) 今後の展望

4月に平城宮跡を訪れた奈良めぐりの時の考えと、本単元の学習を終えた時の考えを比べた三名の生徒の意見を以下に載せる。

「奈良めぐりの学習まとめに書いた自分の考えと、今の考えを比べてみて…」

B：今までの意見では、海外の方に目を向けて考えていたけれど、学習をし終わった後の考えでは、海外の方だけでなく、地域の人々や子供達など幅広い分野で考えることができました。

D：奈良めぐりの学習のまとめでは「文化に親しむため」だと考えていましたが、今は経済効果や歴史学習の場やレクリエーションの場になっているということも理由にふくまれているんだなと考えが深まりました。

E：はじめの私は、技術が発達しているからだと思っていたが、「今（人の願い、課題）」に対応するためにたくさんの知恵があるからだと思い、（自分の考えが）すごく変わったなと思った。

* Bの生徒は、前掲のBと同じ生徒である

本実践は私が本校に異動したばかりの6月実施だったこともあり、ESDで大切にしたい「体験活動」や「人との出会い」の場面を設定するには時間的に難しかった。よって、ESDの視点を働かせることができたか、価値観の変容が十分にあったかといえばそうとはいえない。ただ、この三名の生徒の記述からは、わずかではあるがさまざまな側面から事象をとらえる力、ESDの「多面的・総合的に考える力」が身につけていると読み取ることができるのではないだろうか。

本実践後、夏休み課題として「文化財を自然災害からどのように守ってきたのか」をテーマにした調べ学習に取り組みさせた。また、有志ではあるが奈良文化財研究所のバックヤードツアーに参加し、実際の保存事業について学びを深める生徒もいた。2学期には総合的な学習の時間で「1・2年合同秋の奈良めぐり」を実施し、本実践の学びを生かして外国人観光客に文化財保護に関するアンケート調査を行う1年生の姿があった。今後も教科横断的に学習を続けていく中で、誰もが幸福感を感じられる社会の実現をめざして、自ら課題を見つけ解決に向かう資質・能力が育まれることを期待したい。



現在の学年終了時に目指す姿

自分とは異なる意見に触れることで新たな学びが生まれる楽しさを知り、誰もが幸福感を
感じられる社会の実現をめざして自ら課題を見つけて追究・解決しようとする。

社会科「本物の古墳を見に行こう」

本校敷地内のなら山三号墳を訪れ、
先輩方が復元した円筒埴輪を見学して
身近な「復元事業」を体感させる。

中学生が埴輪を
復元したなんて
すごい！

大昔の人が作ったも
のを、私が今見てい
ることがうれしい。

総合的な学習の時間「奈良めぐり」

平城宮跡を訪れ、復元された大極殿
や朱雀門を間近に見ながら保存運動に
尽力した地域住民や復元事業に携わっ
た人々の思いを考えるところにも、技術
の継承にも関心をもたせる。

どうやって昔の建
物の構造がわかっ
たのだろう。

私財を投じてまで
保存運動をした棚
田嘉一郎の功績は
すごいなあ。

中学1年社会科「日本の諸地域・近畿地方」

○主に養いたいE.S.Dの資質・能力
・批判的に考える力 (Critical Thinking)
平城宮跡の復元事業を進めることは当たり前ではなく、そこには
地域住民、行政、観光客など、さまざまな立場の人の思いがあるこ
とを知り、その背景と関連をとらえる。
・多面的・総合的に考える力

平城宮跡の復元事業に対する人々の思いに加え、経済効果やまち
づくり、技術の継承、歴史研究といったさまざまな側面から文化財
の保存・復元の意義について考える。
・進んで参加する態度

身近な地域の文化財をどのように守り次の世代へ伝えていくべき
か、他地域の事例と比較しながら自ら課題解決に向かい、よりよい
社会の実現に資する姿勢を身に付ける。

○主に育てたいE.S.Dの価値観
・世代間の公正
先人の選択・判断が現在の平城宮跡の姿を創り出ししており、その
おかげで私たちの生活があることから、平城宮跡を次の世代へと伝
えていくことは大きな意義がある。
・幸福感到感性になる、幸福感を重視する
地域住民、観光客、次の世代の人々みんなが幸福を感じられるよ
うな文化財の保存・復元事業のあり方を考えることが大切である。

「奈文研バックヤードツアー」

文化財の発掘・保存事業の現場
を体感する。

**社会科「自然災害から文化財を
どのように守ってきたか」**

先人が自然災害とどのように向
き合ってきたのかを知る。

美術科「場所とわたし・色で思いを表す」

奈良めぐりで訪れた平城宮跡をテーマに、
色とかたちの効果をj使って自分の思いを表現
する学習を通して、平城宮跡を大切に守り伝
えようとした人々の思いを思う気持ちをも育
む。

復元したいと思う人
はポジティブな明る
い気持ちだと思ふ。

心が豊かになる
ような感じの
たちにしたい。

総合的な学習の時間

「1・2年合同秋の奈良めぐり」

奈良市を中心とした6つのコースを設定
し、地域につながる人や場所との交流を通
して多様な考え方に気づき、物事を多角的
に捉え、さまざまな視点から考察する力を
身に付けさせる。

外国人も日本人も、興福
寺に来た人は文化財保護
を後世に受け継ぎたいと
思っているのだなあ。